

(一社)東京都小学校PTA協議会「第29回広報紙コンクール」講評

平成30年6月2日

教育家庭新聞社

代表取締役 菊池清広

第29回広報紙コンクールは発表の通り、北区立赤羽台西小学校PTAの「赤西小PTAだより」に最優秀賞が、ほか優秀賞、佳作、奨励賞の各広報紙が決まりました。受賞された皆さん、おめでとうございます。

さて、PTA広報紙とは何でしょうか…子供たちの教育環境の向上のため、少しでも学校や地域に貢献したいという保護者の組織がPTAであり、そんな保護者に共通する思いや共有すべき情報を掲載したのがPTA広報紙だと言えます。そうだとすれば、もとよりその思いに優劣はありません。あるのは見せ方・親しみやすさ、話題の盛り方の工夫といった、ほんの少しの差だけではないかと思います。

さらに「PTA広報紙らしさ」とは何でしょうか…答えは一つではありませんが、保護者の共通の関心事をどれだけすくい上げているかは大きな目安となります。分かりやすい例では企画・特集がそれにあたります。例年の上位に入賞する広報紙のほとんどが、力の入った特集を組み、読者をひきつけています。

そこで何をテーマにするか、どう見せる（読ませる）かが、広報委員のセンスと問題意識の見せどころ。「うちの広報紙らしさ」とは、このようなところからも浮かび上がってくるものです。

特集テーマとしてここ数年の傾向を振り返ると、「PTAとは」といった組織・運営や役割などについて正面から取り組んだハウツー的なものが多いのは必然ですが、他に「安全対策（交通安全、災害安全、ネット犯罪を含む生活安全）」、「地域連携」、「家庭教育」、一時期に比べて減ったように思えますが「食育」など、バラエティに富んでいます。

「うちの広報紙」が取り上げたい・取り上げなければならないテーマは何か…これを話し合うことは生涯学習そのもの、PTA活動の意義の一つです。どうかこれからも活発な話し合いのもと、魅力的な紙面を発信されるようお願いします。

次に今回のコンクールで優秀賞に選ばれた広報紙について、受賞のポイントや参考としてもらいたいところなどを紹介します。

■「赤西小PTAだより」＝身近で読みたい話題をテーマに

毎号の最終紙面を締めるのはレギュラー・コーナーの「PTA活動報告+歳時記」です。普段着でPTA活動を語るような、構えずに自然体で読んでしまう、そんな切り口・語り口で上手にまとめられています。「あるべき」論ではない、同じ高さの視点には好感がもてます。

年3回・学期末発行なので、各チームにまつわる活動に関連した情報をまとめるには、タイミングも記事量も手頃です。年度最初に同校“名物お父さん”が語る「なぜPTAやってるの?」を通して、「PTAと学校の関係が良好なところは教育環境としても良好だと信じているから」とカッコ良く語らせます。そして年度最後「PTAやる?やらない?」では次年度の役員委員選出を念頭に、よく聞くPTAがらみの「都市伝説」を解きほぐします。

そしてもう一つの柱が毎号で組まれている特集企画。教職員紹介すごろく、夏休み中の交通事故・犯罪・ネットから守る、学校創立55周年、宝物大公開(祝卒業)。どのテーマも赤西小の、赤西小の子供と保護者にとって、身近で、しかも今この時だからこそ読みたい話題です。

■「ほりのうち」＝毎号が特集2本立ての力作

ほとんどの紙面がまるで「特集」で占められているかのような、特集企画にエネルギーを尽くした広報紙の力作です。年3回発行で、第1回は定番の「教職員PTA役員紹介号」。各人の特技に子供時代の遊びをインタビュー。2回目からは毎号の特集は2本立てにパワーアップ。「PTAお手伝いカード」の実態報告と、開校85周年記念に校長先生の「校歌」解説。3回目はPTA役員・委員に就任の切っ掛けや現在の活動状況、感想などのアンケート特集と、地域に注目した「掘小を支える地域の方々」。

少ないページ数を有効活用する工夫から、各号の1面からすでに写真と情報がいっぱい。「特集紙面の案内」がほぼ欄外にレイアウトされているのは、「中身で勝負」という自信の表われに思えます(V)。

■「礪川」＝手にしたくなるおしゃれな紙面

昨年迎えた開校145周年、94年前に作られた日本最古のプールを持つ小学校…しかし紙面はポップでおしゃれなビジュアル系。手に取りやすい気安さも大切な要素です。学校をハードとソフト両面から分析・紹介した「学校的设计図」では、教職員とPTA三役に対して、「仕事(役割)の魅力」をキーワードに自己紹介しても

らっています。

次号「PTAの設計図」ではまず巻頭で、身近な地域から、東京都から全国へと、子供の健全育成に関係する団体を紹介。効果的な活動には連携と協力が大切で、PTA活動が単体（単P）で機能するばかりではないことがわかります。さらにPTAの部活動やボランティア活動まで、広い視野からPTAの守備範囲と位置づけを示します。

■「RINSEN」＝特集へのこだわりが楽しい

「やさしく つよく かしこく 愛されて 140 周年 臨川小学校」で年間を一貫した特集が楽しく、在校生・保護者のみならずOB・OG、地域の大人も喜びの輪に巻き込んでします。何よりも当の広報委員たちの楽しんでいる様子が伝わります。そして毎号の一面を飾る、子供たちの感動的な写真が印象的。真っ青な空の下で、汗の光るマ스ゲームで、一面の雪で真っ白な校庭で、躍動感があふれます。

第3号だけの単発企画ですが、入学から1年たった新入生一人ひとりの寄せ書き「できるようになったこと」と、対比するような、卒業する6年生一人ひとりの「保護者へのお手紙」の全面記事。小規模校だから出来る、保護者の心に残る温かい企画ですね。

■「ひがしとやま」＝群を抜く付録の充実度

PTA活動や学校行事への奉仕の報告をメインに、年3回発行する「本号」と、各号に必ず挟み込まれる「付録」を制作。実質年6回発行とも言える充実ぶりで労力・企画力共に群を抜いています。

新年度スタート号付録は、教職員を多方面から紹介した「YEAR BOOK」、続いてはこの年から同校にスタートした地域協働学校・運営委員会を取材した「GUIDE BOOK」。第3号は「保存版 PTAおシゴト図鑑」で、役員・委員のアンケートを基に仕事の内容・密度・やりがいなどを分析、相性の良い役割探しのお手伝い。さらに第2付録「号外 通算 200 号」では歴代広報委員、PTA会長などから思い出のメッセージをまとめています。